

夜叉神堂

2つの夜叉神堂の小さな建物の中にある像は、雄夜叉と雌夜叉で、かつて南大門の左右に警備のために立っていた。これらの神を拝まずに通ると罰が当たると言い伝えができた後、これらの像は寺の敷地内に移動された。これらの像は1596年に現在の場所に移動された。

これらの像は、東寺の偉大な佛教指導者であり別当であった空海（774-835）によって彫られたと言われている。夜叉神は守護霊として知られており、東側は雄夜叉と西側は雌夜叉である。神々が肉体を与えられたものと考えられている文殊菩薩と虚空蔵菩薩は両方とも智慧を司る神々として知られる。呪いをかけられるという評判もあるが、夜叉神には歯痛を和らげる力があるという伝説もある。